

木下秀勝さん(北海道・浦河町井寒台)の 日高昆布を食べてみませんか?



北海道は食の宝庫。とりわけ「日高昆布」の中で
"特上浜"と呼ばれているのは、太平洋に面した日高東
部・浦河町の井寒台(いかんたい)の浜。
雄大な日高山脈の雪解け水が海に流れ込む、
良好な昆布の漁場です。



木下秀勝さん

木下秀勝(80歳)さんは父から漁場を受け継ぎ、毎年7月～9月 昆布漁を続けています。
その木下さんは記録映画「日高線と生きる」(2021年)で初めてコンブ漁の一部始終を、
井寒台の昆布漁師の“プライド”を全国の皆さんにご覧いただくことができました。

今回木下さんご協力を得て、皆さんに「おそらく分け」させていただきたいと思います。

木下秀勝さんの井寒台昆布、500グラム、一包 4,000円(税込、送料別)です。

五包からのご注文は送料無料とさせていただきます。

お買い求めいただけましたら、記録映画「母と子の絆～カネミ油症の真実」(2024年秋公開予定)の製作
支援とさせていただきます。

《日高昆布とは》

北海道日高地方沿岸で取れる「日高昆布」は1等から5等まであり、「井寒台浜」の昆布は特上で、朝5時
から前浜で取れた昆布はすぐに天日で干され、乾燥保存されます。

井寒台の昆布は、肉厚で、風味があり、出しを数回取ったのちは、コンブ巻やおでんや煮物、
野菜や豆との炊き合わせ、そして裁断して甘く煮込み、ご飯のお供として…。

つまり捨てるところはありません。

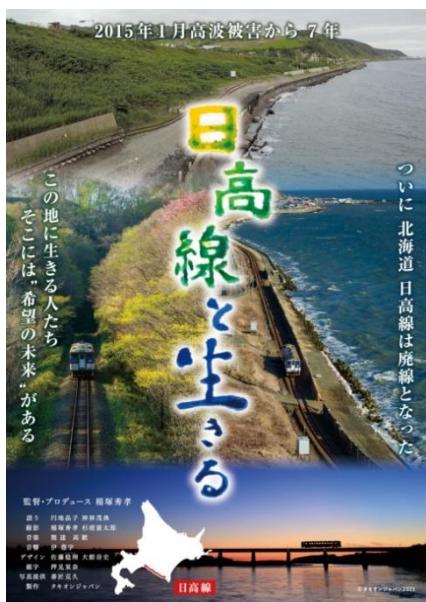
まず乾燥した井寒台の昆布を、水で戻して(約2時間)ください。

長さ約20cm→約26cm、幅約10cm→約14cmになるのです。

皆さまのご注文をお待ちいたします。

問合せ先:「母と子の絆～カネミ油症の真実」製作委員会

藤原寿和 080-4868-7388 fujiwara.t2015@gmail.com



木下さんのコンブ漁を取材する稻塚監督さん

映画『日高線と生きる』

「母と子の絆～カネミ油症の真実」製作に ご支援を！

ドキュメンタリー映画企画趣意書

「母と子の絆～カネミ油症の真実」

1968年(昭和43年)、カネミ倉庫(北九州市小倉)が製造した食用米ぬか油に混入した、PCB(ポリ塩化ビフェニール)によって、日本最大の食中毒事件が引き起こされた。

PCBの加熱によりダイオキシン類(PCDF)が生成され、身体に異変が生じた。

皮膚疾患(巨大なわざき)、内臓疾患、強い倦怠感、高熱など…。

「カネミ油症事件」発生から55年(2023年)、今では1世から子、孫、ひ孫へと世代を越えて、被害の連鎖が続いている。

なぜカネミ油症がおき、どのように身体に影響を及ぼしたのか?

事件の本質を明らかにし、日本国内だけでなく、今を生きる世界の人々に伝え、訴える。

◆患者・家族の証言

福岡・長崎・広島など西日本を中心に全国に広がる「カネミ油症」被害者の証言を聞く。

◆原因を究明

なぜ「カネミ油症」が起きたのか? 当時の報道資料を基に、映像の再現シーンで描く。

◆「カネミ油症事件」発生後の歴史的検証

原因加害企業(カネミ倉庫)と製造者企業(カネカ)の責任、国による救済、被害者への補償、「油症治療班」(九州大学)がどのように関わってきたのか?について、50年余が経過した今だからこそ分かる「真実」を伝えたい。

そして、「カネミ油症事件」は、日本のみの食品公害として捉えるのではなく、地球上に暮らす人々の共通の問題であることを新たな視点で捉える。

【取材・撮影・監督】 稲塚秀孝(株式会社タキオンジャパン)

「二重被爆～語り部・山口彌の遺言」(2011)「フクシマ 2011～被爆に晒された人々の記録」(2012)
 「書くことの重さ～作家佐藤泰志」(2013)「NORIN TEN」(2015)「仲代達矢“役者”を生きる」(2015)、「奇跡の子どもたち」(2017)「憲法を武器として～恵庭事件 50年目の真実」、(2017)「ああ栄冠は君に輝く」(2018)「ヒロシマ ナガサキ 最後の二重被爆者」(2019)、「日高線と生きる」(2021)「役者として生きる」(2022)

2024年秋 全国公開(予定)

「母と子の絆～カネミ油症の真実」製作委員会

＜事務局＞ 藤原寿和 080-4868-7388 fujiwara.t2015@gmail.com

支援金 振込先:ゆうちょ銀行 店番138(イチサンハチ) 口座番号 2302351 口座名イナヅカテカ